

高品質化を図るう!!

平成27年産 小麦の栽培しおり (品種名：さめきの夢2009)

発行：香川県農業協同組合
監修：香川県

- ◎排水対策を徹底し収量・品質の向上を図りましょう
- ◎適期播種・適期防除(赤かび病)・適期収穫に努めましょう
- ◎種子更新を徹底し、種子伝染性の病害の発生を防止しましょう

1. 品種特性と生育の目安

播種期	節間伸長開始期	出穂期	開花期	成熟期
11月15日	3月16日	4月12日	4月25日	6月1日

(香川県農業試験場(綾川町) H23～25年産ドリル播)

2. 播種

播種適期	播種量 (kg/10a)	
	ドリル播	全面全層播
11月15日～25日	7～9	13～15

注：播種の早限は11月10日
12月5日を過ぎて播種すると、収量・品質が低下するおそれがあるので注意する。

4. 栽培のポイント

- ①排水対策
播種前対策：ほ場の周囲(ヨケ)と5m間隔に排水溝を設置
播種後対策：落水口の確保とロータリー幅ごとに深さ15～20cmの排水溝を設置(畦盛板の使用など)
- ②土づくり肥料の施用で酸度矯正(適正pH6程度)
- ③適切な肥培管理
適正な施肥量と適期の追肥
- ④雑草の体系防除
播種前、初期、中期除草剤の体系処理による雑草防除の徹底
- ⑤病害虫の防除
赤かび病の適期(開花始めとその7～10日後の2回)防除
- ⑥収穫の適正化
適期収穫・雑草種子(カラスノエンドウ・ヤエムグラ)の混入防止

3. 排水対策と土入れ作業



播種前の排水溝設置作業



畦立て同時播種作業(逆転耕)



土入れ作業

5. 作業の要点

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
排水対策 (ほ場の乾田化)	耕起 播種 (溝あげ)	麦踏み・土入れ	麦踏み・土入れ	追肥・土入れ	追肥・土入れ	赤かび病	刈取り 乾燥調製	刈取り 乾燥調製
雑草防除(播種前) 種子消毒	雑草防除(初期)	雑草防除(中期)	雑草防除(中期)	雑草防除(中期)	雑草防除(中期)	赤かび病	刈取り	乾燥調製
(溝あげ) 稲刈後のワラを浅く鋤きこみ(3～5cm)排水溝を設ける。	(雑草) 除草剤を散布する。播種前に雑草の多い場合は、	(消毒) 種子更新を毎年おこない、種子伝染病対策として種子粉衣	(雑草) 初期除草剤は、播種後から発芽前までに散布する。	(麦踏み) 土壌が乾いた状態で麦踏みを行う。節間伸長期前(月中旬)まで排水溝の補修を同時に行う。	(土入れ) 追肥・土入れ(防除) 追肥後に土入れを行うと効果が高い。2月中旬～3月上旬にかけて追肥。除草剤は露がなくなつてから散布する。	(防除) その7～10日後に行つて、赤かび病の防除は、開花始めと	(刈取り) 刈取り前に必ず異種麦や雑草(カラスノエンドウやヤエムグラ)を抜き取り、異種麦や草	(乾燥) 調整後は吸湿防止を特に心掛ける。乾燥後はなるべく早く調整し、高温・急速乾燥は絶対に行わない。
畦盛板による排水溝の事例 (播種直後) 30～35cm 15～20cm	麦踏み・土入れ	麦踏み・土入れ	麦踏み・土入れ	麦踏み・土入れ	麦踏み・土入れ	赤かび病	刈取り	乾燥調製
畦盛板による排水溝の事例 (播種直後) 30～35cm 15～20cm	麦踏み・土入れ	麦踏み・土入れ	麦踏み・土入れ	麦踏み・土入れ	麦踏み・土入れ	赤かび病	刈取り	乾燥調製
畦盛板による排水溝の事例 (播種直後) 30～35cm 15～20cm	麦踏み・土入れ	麦踏み・土入れ	麦踏み・土入れ	麦踏み・土入れ	麦踏み・土入れ	赤かび病	刈取り	乾燥調製

栽培履歴を必ず記載し、収穫の10日前までに提出しよう

6. 肥培管理

<例1>砂質田(水はけの良いほ場) kg/10a

肥料名	全量	基肥	追肥(2中～3上)	成分		
				窒素	リン酸	カリ
硫酸アンモニア	40	0	2	11.2	8.0	9.6
複肥	80	55	25	11.2	6.4	6.4
PKセーフ	48	8	8	11.2	6.4	6.4
土づくり肥料	60～100	60～100				

<例2>粘質田(水はけの悪いほ場) kg/10a

肥料名	全量	基肥	追肥(2中～3上)	成分		
				窒素	リン酸	カリ
硫酸アンモニア	40	0	2	12.6	9.0	10.8
複肥	90	60	30	12.6	7.2	7.2
PKセーフ	48	8	8	12.6	7.2	7.2
土づくり肥料	60～100	60～100				

<例3>基肥一発施肥体系 kg/10a

肥料名	全量	基肥	成分(粘質田)		
			窒素	リン酸	カリ
さめきの麦専用肥料	65(砂質田) 70(粘質田)	65(砂質田) 70(粘質田)	12.4(13.3)	7.8(8.4)	7.8(8.4)
さめきの小麦専用肥料Ⅱ型	70(砂質田) 80(粘質田)	70(砂質田) 80(粘質田)	11.2(12.8)	5.6(6.4)	5.6(6.4)
土づくり肥料	60～100	60～100			

土づくり肥料の一覧表 成分(%)

肥料名	ケイ酸	苦土	アルカリ分	鉄分	マンガン
スーパーケイカル	25.0	4.0	35.0	15～18	0.5～1
ユーケイカル	26.0	4.0	40.0	1～2	0.5～1
苦土石灰	0	14.5	53.0	0	0

*省力を目的としているので、気象条件により収量が低下する場合があります。

●主要畑地雑草

種名	スズメノテッポウ	スズメノカタビラ	カスノコグサ	ヤエムグラ	カラスノエンドウ
草姿					
防除のポイント	初期除草剤による防除	播種前と初期除草剤の体系防除	播種前と初期除草剤(クリアター乳剤)の体系防除	中期除草剤による防除	収穫前に必ず抜取

7. 防除管理(農薬の飛散防止に努めましょう)

①種子消毒

病害虫名	薬剤	希釈倍数等	使用時期/回数	注意事項	作業日
裸黒穂病	ベンレートT水和剤20	乾燥種子重量の0.5%	播種前/1回	種子1kgに対し5gを粉衣する。	

②雑草防除

区分	薬剤	対象雑草名	使用時期/回数	10a当たり使用量	散布方法・注意事項等	作業日
播種前	バスタ液剤	一年生雑草	播種前または播種後出芽前(雑草生育期)/1回	300～500ml	10a当たり100～150ℓの水に溶き、雑草の茎葉全体に均一にかかるとよい散布する。	
	ラウンドアップマックスロード	一年生雑草	耕起前または播種後出芽前(雑草生育期)/3回以内	200～500ml	(通常散布) 10a当たり50～100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。(少量散布) 10a当たり25～50ℓの水に溶き、専用ノズル等で散布する。	
初期除草	ボクサー	一年生雑草	播種後～2葉期まで(雑草発生前～雑草発生初期)/1回	400～500ml	抵抗性スズメノテッポウにも効果を示す。10a当たり70～100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。	
	ムギレンジャー乳剤	一年生雑草	播種後出芽前(雑草発生前)/1回	400～600ml	10a当たり100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。SU剤等抵抗性スズメノテッポウを対象とする場合は、薬量を所定範囲内で多めに散布する。	
	トレファンサイド粒剤2.5(トレファンサイド乳剤)	一年生雑草	播種後～発芽前/2回以内	(粒剤) 4～5kg (乳剤) 200～300ml	(粒剤) ドリル播では種土が十分でないため葉の恐れがある。(乳剤) 10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。抵抗性雑草が問題となっているほ場では使用しない。	
中期除草	クリアター乳剤	一年生雑草	播種直後(雑草発生前)/1回	500～700ml	10a当たり70～100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。播種、覆土後なるべく早く散布する。	
	ハーモニー75 DF水和剤	一年生広葉雑草及びスズメノテッポウ	麦3葉期～節間伸長前(スズメノテッポウ5葉期まで)/1回	5～10g	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。器具を使用後、速やかに消石灰水500倍液でよく洗浄する。	
	アクチノール乳剤	畑地一年生広葉雑草	一年生広葉雑草の発生前、2または3節期(穂ばらみ期まで)/2回以内	100～200ml	10a当たり70～100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。雑草が多く再度散布する場合には1週間以上間隔をおいて使用する。	

③病害虫防除

病害虫名	防除時期	薬剤	希釈倍数等	使用時期/回数	散布方法・注意事項等	作業日
赤かび病	開花始め(1回目防除)	トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	収穫14日前まで/出穂期は2回以内	10a当たり100ℓの水に(6.6～10.0)溶き噴霧機等で散布する。	
	1回目防除の7～10日後	ワークアップフロアブル	2,000倍	収穫14日前まで/2回以内	10a当たり100ℓの水に(50ml)溶き噴霧機等で散布する。	
アブラムシ類	発生初期	アグロスリン乳剤	2,000倍	収穫21日前まで/3回以内	10a当たり100ℓの水に(50ml)溶き噴霧機等で散布する。	

①②③について記載している薬剤の使用基準は平成26年8月1日現在のものであり、今後変更になる場合がありますので、使用する際は薬剤のラベルをよく読んでラベルの記載内容どおりに使用してください。

作成：2014年8月

収量と品質の安定化を図るう!!